

千葉市美術館プレスリリース

OKAZAKI

岡崎和郎 | WHO'S WHO | 見立ての手法

KAZUO



主催：千葉市美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会
協賛：ライオン、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜、日本テレビ放送網

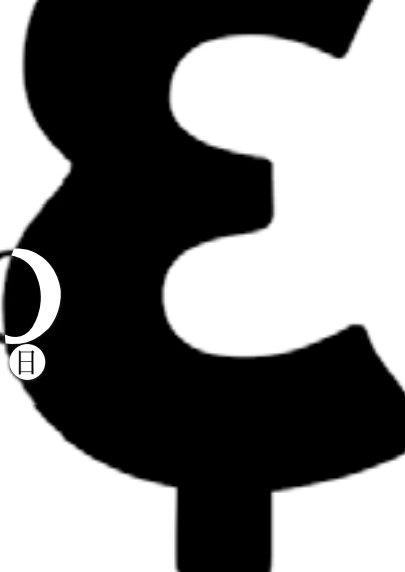
岡崎和郎(1930-)は、身の回りのものをモチーフとした、楽しく軽快なオブジェで知られています。1960年代より、「御物補遺」という言葉を制作指針として掲げ、「西洋では見落とされてきた物の見方を、東洋の見地から補足するようなオブジェ」を制作してきました。電球や人形など身近にあるものの内側を型に取ったり、偶然できた形に別なイメージを投影させるなど、岡崎のオブジェは、通常の視点から外れた時に現れる物の思いがけない姿を示してくれます。

岡崎和郎の「Who's Who (人名録)」シリーズは、アーティストをはじめとするさまざまな人物(やその作品)から着想を得て制作された一群のオブジェです。60年代初期から現在にいたるまで作られ続けており、まさにこの作家のライフワークともいべきシリーズになりました。本展はこのシリーズの紹介を通して、半世紀を超える岡崎の仕事を観覧します。さらに「Who's Who」にとりあげられた面々——ヨーゼフ・ボイス、ブランクーシ、ジョン・ケーージ、チャーチル英元首相、コーネル、デュシャン、ジャコメッティ、樋口一葉、アングル、磯崎新、ジャスパー・ジョーンズ、葛飾北斎、河原温、宮本武蔵、マン・レイ、ウィリアム・テル、仙厓ら——の作品や資料をならべて展示することで、古今東西の人物たちと岡崎の世界観が巡り会い語り合う場をつくりだします。

2016 9/7 → 10/30
水 日

会期 9月7日[水]-10月30日[日]
開館時間 10:00-18:00(金・土曜日は20時まで)
入場受付は閉館の30分前まで

休館日 9月26日(月)、10月3日(月)
各展観覧料 一般700円(500円) 大学生500円(350円)
岡崎和郎展+小川信治展セット観覧料 一般1000円 大学生700円
※小・中・高校生、障害者手帳をお持ちの方とその介護者1名は無料
※()内は前売り、団体20名以上、および市内にお住まいの65歳以上の方の料金
※前売券は、千葉市美術館ミュージアムショップ(8月28日まで)、ローソンチケット、セブン-イレブン[セブンチケット]、千葉都市モノレール「千葉みなと駅」「千葉駅」「都賀駅」「千城台駅」の窓口(10月30日まで)にて販売
※10月18日(火)は「市民の日」につき観覧無料



OGAWA

あなた以外の世界のすべて | 小川信治

SHINJI

主催：千葉市美術館

小川信治(1959-)は「世界とは何か」をテーマに、西洋名画や観光名所など人々の見慣れたイメージを極めて精緻に改変し、重層的な世界の可能性を提示する作品を制作してきました。

レオナルド・ダ・ヴィンチやフェルメールといった誰もが知る名画を忠実に模写し、そこから中心となる人物を抜き去った「Without You」シリーズの制作を皮切りに、写真や古い絵葉書を元に人物や建物など同じモチーフを二つ並べて描き込む「Perfect World」、モン・サン・ミッシェルを思わせる形のなかに様々な国や時代の建築様式を組み込み、幾通りもの風景を現した「モアレの風景」など、油彩や鉛筆といった伝統的な技法を用いながら、多様なシリーズが生み出されました。精緻な描写力による多面的な表現は、各シリーズの要素が重層的に絡み合いながら、現在も展開を続けています。

首都圏の美術館において初の個展となる本展では、近年の新たなシリーズとして注目される「対称性/非対称性」に始まり、「Without You」、「連続体」、「Behind You」といった代表作を、国内未発表の近作・新作を交えてご覧いただけます。あわせて、一つの風景が層状に組み換えられ別の風景へと循環していく《干渉世界》、一つの形に複数の意味をもたせ、形が回転することで異なる意味が現れる《ピルエット》といった映像作品、さらには複数のメディアを組み合わせた新作インスタレーションまで、現在の小川による様々な試みをご紹介します。

岡崎和郎展+小川信治展バージョン (391字)

千葉市美術館では、現代美術の企画展「岡崎和郎 Who's Who—見立ての手法」と「小川信治—あなた以外の世界のすべて」を同時開催します。岡崎和郎は1960年代からオブジェ作家として活躍してきました。本展では岡崎の代表的なオブジェシリーズである「Who's Who」を一挙公開。マルセル・デュシャンやマン・レイ、葛飾北斎といった人物から着想を得て制作したオブジェと、その発想の源泉となった作品を並べて紹介します。もう一方の小川信治は、写真と見紛うような緻密な鉛筆画や、名画の忠実な模写を得意としますが、作品の中から誰もが知るモチーフを抜き出したり、あるいは二重にして描き込むなど、私達が見知っている世界とのズレを提示する作品を手がけています。首都圏の美術館では初の個展となる本展では代表作の他、映像を含む新作が発表されます。2つの展覧会を通して、現代美術の多様さをお楽しみください。

岡崎和郎展バージョン (198字)

岡崎和郎(1930-)は1960年代からオブジェ作家として活躍してきました。本展では、マルセル・デュシャンやマン・レイ、葛飾北斎といったアーティストをはじめとする様々な人物から着想を得て作られた一群のオブジェシリーズ「Who's Who (人名録)」を紹介します。岡崎の作品のみならず、発想の源泉となった作品や資料を並べて展示することで、古今東西の人物たちと岡崎の世界観が語り合う場を作り出します。

【岡崎和郎 略歴】

1930年岡山県に生まれる。1956年、早稲田大学文学部大学院美術史専攻中に作品制作を始める。1958年より読売アンデパンダン展に出品、66年に東京画廊で初個展を開催。以降、現在に至るまで制作を続けている。

【主な展覧会歴】

1997年「岡崎和郎展」(倉敷市立美術館)、1998年「岡崎和郎 WHO'S WHO」(横田茂ギャラリー)、2010年「岡崎和郎展 補遺の庭」(神奈川県立近代美術館 鎌倉)

小川信治展バージョン (202字)

小川信治(1959-)は、西洋名画や観光名所など人々の見慣れたイメージを、鉛筆や油彩で精緻に描きなおした作品を手がけています。しかしその作品はただの模写ではなく、重要な人物を抜き去ったり、モチーフを二重に描き込むなど、私達が記憶している世界とのズレを提示します。首都圏の美術館での初の個展となる本展では、代表作の他に映像を含む最新作を発表。小川の「ありえたかもしれない世界」をご堪能ください。

【小川信治 略歴】

1959年山口県に生まれる。三重大学教育学部美術学科卒業、1994年よりWithout Youシリーズ、1997年からPerfect Worldシリーズ、2002年から連続体シリーズ、2005年からモアレの風景シリーズに着手。

【主な展覧会歴】

2002年「SOUVENIR/SOUVERAIN」(豊田市美術館)、2006年「小川信治展—干渉する世界」(国立国際美術館)

岡崎和郎展 みどころ

・岡崎和郎のオブジェ

日本を代表するオブジェ作家として知られる岡崎和郎は、マルセル・デュシャンやマン・レイといったシュルレアリスム、ダダイスムに関心を持ち、1963年頃からオブジェの制作をはじめました。以降、現在に至るまで半世紀に渡りオブジェをメインに制作を続けています。

そのスタイルは、身の回りにある平凡なものやありふれたイメージを引用したもので、芸術的な重々しさや難解さをあまり感じさせず、ポップでユーモラスな印象を与えます。

・いま注目される1960年代のアーティストたち

いま、ハイレッド・センターやもの派といった1960年代に活躍した作家たちが国内外で注目されています。彼らはそれまでの美術の枠をはみ出すこと、芸術の「オリジナリティ」という発想を打破することを試みました。岡崎の場合もオブジェを大量に工場生産しておみやげとして販売したり、オブジェパックとして発表するなど、作品のオリジナリティを追求するのではなく、むしろ商業に接近する部分からも60年代のアーティストらしい側面をみせています。

小川信治展 みどころ

・写真と見紛う超絶技巧

主に油彩と鉛筆による小川信治の作品は、いずれも一見すると写真なのではないかと思うほど緻密に描き込まれています。その超絶技巧はリアルな描写力だけにとどまらず、カメレオンのように変幻自在に名画の作者、例えばゴッホやフェルメールになりきり描き方から変わってしまう点にも発揮されています。これらの徹底された描写力に裏打ちされた作品には、元となった作品や風景とは異なる改変—作品内の人物が消えている、二重に描かれる—が加えられ、ただの模写ではない、私達がよく知る名画や風景から「ずらされた」ひとつの世界が立ち現れるのです。

・新作インスタレーション、そして浮世絵とのコラボレーション

本展では、これまでの代表作に加え「グランド・ツアー」と題された新作を発表。絵画だけでなく、オブジェや映像を組み合わせるとひとつの世界を作り出す新たな試みとなります。また、浮世絵を多く所蔵する千葉市美術館での開催にあたり、所蔵作品の鈴木春信《鞠と男女》、歌川広重《東海道五拾三次之内 蒲原 夜之雪》を元に「Without You」、「連続体」シリーズの新作を制作。展示室では元となった浮世絵も並べて展示し、浮世絵と現代美術を所蔵する千葉市美術館ならではの趣向となります。

関連イベント

岡崎和郎 Who's Who – 見立ての手法 –

講演会

「Who's 岡崎和郎—オブジェ・ダダ・シュルレアリスム」

講師：巖谷國士（明治学院大学名誉教授）

日時：10月1日（土）14:00より（13:30開場予定）

11階講堂にて

先着150名（当日12:00より11階にて整理券配布）/聴講無料

「岡崎和郎 オブジェの時代」

講師：加治屋健司（東京大学大学院総合文化研究科准教授）

日時：10月15日（土）14:00より（13:30開場予定）

11階講堂にて

先着150名（当日12:00より11階にて整理券配布）/聴講無料

市民美術講座

「岡崎和郎入門」

講師：水沼啓和（当館学芸員）

日時：9月17日（土）14:00より（13:30開場予定）

11階講堂にて / 先着 150名 / 聴講無料

小川信治—あなた以外の世界のすべて

対談

「小川信治のグランドツアー、その思考と制作」

出演：小川信治、平芳幸浩（京都工芸繊維大学 美術工芸資料館准教授）

司会進行：畑井恵（当館学芸員）

日時：9月24日（土）14:00より（13:30開場予定）

11階講堂にて/先着150名（当日12:00より11階にて整理券配布）/聴講無料

小川信治によるレクチャーの後、これまでの作品制作の歩みや、今回が初の試みとなる新作インスタレーション制作の過程などについて、国立国際美術館にて「小川信治展—干渉する世界—」（2006年）を企画担当した平芳幸浩との対談形式で語ります。

市民美術講座

「小川信治が描く世界」

講師：畑井恵（当館学芸員）

日時：10月22日（土）14:00より（13:30開場予定）/

11階講堂にて/先着150名/聴講無料

共通関連イベント

ギャラリートーク

担当学芸員による：9月7日（水）14:00～

ボランティアスタッフによる：会期中の毎週水曜日（9月7日を除く）14:00～

◆水曜日以外の平日14:00にも開催することがあります。

◆混雑時には中止する場合があります。

ワークショップ（事前申込制）

「お・か・しなオブジェ」

10月2日（日）/14:00より/11階講堂にて/定員20名

対象：中学生以上

参加費500円

「オブジェ」ってなんだろう。美術の世界で使われる言葉を、身近な素材から考えます。チョコ、キャンディ、クッキーにマシュマロ。お馴染みのお菓子を使って、見たことのないオブジェ作りに挑戦。最後はコーヒーを飲みながら、おかしなオブジェが並ぶ風景を楽しみましょう。

《申込方法》

往復はがきまたはホームページからお申し込みください。

往復はがきの場合は、郵便番号・住所・電話番号・氏名・希望のイベント名・参加人数（2名まで）・年齢を明記の上、〒260-8733 千葉市中央区中央3-10-8 千葉市美術館 イベント係 までお申し込みください。

※申込締切 9月21日（水）必着 ※応募多数の場合は抽選

さや堂ホール展示プロジェクト2016（仮）

「星のみかた」

会期：10月15日〔土〕-10月30日〔日〕10:00-18:00（金・土曜日は20時まで）

観覧料 無料

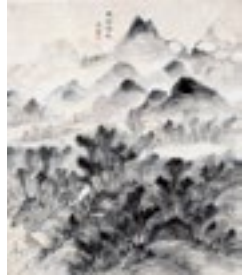
美術館1階「さや堂ホール」にて、植松琢磨による個展を開催。「宇宙」をテーマに制作したインスタレーション作品を発表します。会期中には、アーティストトークや対談イベント、ワークショップの開催を予定（詳細は当館ホームページにてご確認ください）。

○植松琢磨：1977年金沢生まれ、大阪府在住。多様な形象が立ち現れる幻想的なインスタレーション作品を国内外で発表。新しい生命の在り方を、様々なメディアと手法で表現している。

次回展予告

「文人として生きる 浦上玉堂と春琴・秋琴—父子の芸術」

11月10日（木）-12月18日（日）



浦上玉堂《山雨染衣図》
重要文化財 個人蔵

記者レクチャー・レセプション

報道関係の皆様を対象に、披露説明会を行います。スライドレクチャーにて作品の見どころを担当学芸員よりご説明し、その後展示室をご覧ください。

9月6日（火）/15:00より（1時間程度）/10階会議室にて（その後、8・7階展示室へご案内いたします）

また、展覧会の開催に伴いオープニング・レセプションを行います。本展の作家、岡崎和郎と小川信治も出席いたしますので、ぜひご参加ください。

9月7日（水）/16:00より/11階講堂にて

いずれも参加ご希望の方は同封の申込書に必要事項をご記入の上、FAXにてご連絡ください。

交通案内

◎JR千葉駅東口より

・徒歩約15分

・バスのりば⑦より大学病院行または南矢作行にて「中央3丁目」下車徒歩約3分

・千葉都市モノレール県庁前方面行「^{よしかわ}霞川公園駅」下車徒歩約5分

◎京成千葉中央駅東口より徒歩約10分

◎東京方面から車では京葉道路・東関東自動車道で宮野木ジャンクションから木更津方面へ、貝塚IC下車国道51号を千葉市街方面へ約3km、広小路交差点近く

◎千葉市中央区役所と同じ建物です

◎地下に区役所と共有の駐車場がありますが、混雑が予想されますので、なるべく公共の交通機関をご利用ください



展覧会広報用として作品画像をご用意しております。是非、本展をご紹介しますようお願いいたします。ご紹介いただける場合は、別紙の申込書に必要事項をご記入の上、FAXにてご連絡ください。画像の使用は1回限りとし、展覧会紹介の目的にのみご使用ください。

岡崎和郎 Who's Who – 見立ての手法 Who's Who by Okazaki Kazuo – Similarity and Difference

小川信治—あなた以外の世界のすべて Shinji Ogawa – The Whole World without You



1.岡崎和郎《hear something...》1966年 個人蔵



2.岡崎和郎《P.M.ボール》2005年 個人蔵



3.岡崎和郎《瀧口修造—Arrow Finger (人名録より)》1968年 個人蔵



4.岡崎和郎《贈物》1962年 倉敷市立美術館蔵



5.小川信治《ラス・メニーナス》2002年
国立国際美術館蔵



6.小川信治
《ウブサラークラクフ》2013年
STANDING PINE蔵



7.小川信治
《アジェ・プロジェクト1》2004年
国立国際美術館蔵



8.小川信治《ウルビーノ公夫妻の肖像 バッティスタ・スフォルツァ》2006年 作家蔵



9.小川信治《ウルビーノ公夫妻の肖像 フェデリコ・ダ・モンテフェルトロ》2007年 作家蔵

■ 写真ご使用に際してのお願い

- * 作品写真の使用は、本展のご紹介をいただける場合のみとさせていただきます。
- * 写真のご利用は、1 申込について 1 回とし、使用後のデータは破棄してください。
- * 基本情報確認のため、広報担当まで一度校正紙をお送りください。
- * 掲載後、広報担当まで見本誌をご送付くださいますようお願いいたします。
- * お手数ですが、招待券プレゼントの受付、発送などは、貴編集部にてお願いいたします。
原則として、掲載紙をご送付いただきました時に招待券をお送りいたします。

千葉市美術館
広報担当 行
FAX: 043-221-2316

貴社名：	媒体名：
ご担当者名：	発行予定日：
TEL：	発行部数：
FAX：	定価：
Email：	掲載予定コーナー名等：
画像到着希望日： 月 日 時まで	画像の掲載サイズ <small>(おおよそで結構です 例：5cm 四方、など)</small> ：

■ 画像データ申込 (ご希望のデータの番号に○をつけてください。)

1. 岡崎和郎《hear something・・・》1966年 個人蔵
2. 岡崎和郎《P.M.ボール》2005年 個人蔵
3. 岡崎和郎《瀧口修造—Arrow Finger(人名録より)》1968年 個人蔵
4. 岡崎和郎《贈物》1962年 倉敷市立美術館蔵
5. 小川信治《ラス・メニーナス》2002年 国立国際美術館蔵
6. 小川信治《アップサラー クラクフ》2013年 STANDING PINE蔵
7. 小川信治《アジェ・プロジェクト1》2004年 国立国際美術館蔵
8. 小川信治《ウルビーノ公夫妻の肖像 バッティスタ・スフォルツァ》2006年 作家蔵
9. 小川信治《ウルビーノ公夫妻の肖像 フェデリコ・ダ・モンテフェルトロ》2007年 作家蔵

■ プレゼント用招待券申込

(ご希望の場合はチェックをつけてください)

5 組 10 名様分 希望します。

(それ以外の枚数が必要な場合は別途ご相談下さい。)

チケット送付先
ご住所：〒

問い合わせ先

千葉市美術館 〒260-8733 千葉市中央区中央3-10-8

Tel. 043-221-2311(代表) / 043-221-2313(直通)

Fax. 043-221-2316

HP. <http://www.ccma-net.jp/>

広報担当：磯野 愛

OKAZAKI KAZUO

岡崎和郎 | WHO'S WHO | 見立ての手法

OGAWA SHINJI

あなた以外の世界のすべて | 小川信治

記者レクチャー／レセプション参加申込書

記者レクチャー 9月6日(火) 15:00より 10階会議室にて

報道関係の皆様を対象に、披露説明会を行います。

スライドレクチャーにて作品の見どころを担当学芸員よりご説明し、その後展示室をご覧ください。

オープンングレセプション 9月7日(水) 16:00より 11階講堂にて

展覧会の開催に伴いオープンング・レセプションを行います。本展の作家、岡崎和郎と小川信治も出席いたします。

参加ご希望の方はチェックボックスと下記項目にご記入の上、

こちらの用紙を **FAX(043-221-2316)** までご返信ください。

お名前

ご所属

貴媒体名

お電話番号

E-mail address

問い合わせ先 広報担当 磯野 愛
Tel. 043-221-2313 (直通)

千葉市美術館
〒260-8733 千葉市中央区中央3-10-8

HP. <http://www.cma-net.jp/>